

# 調査結果

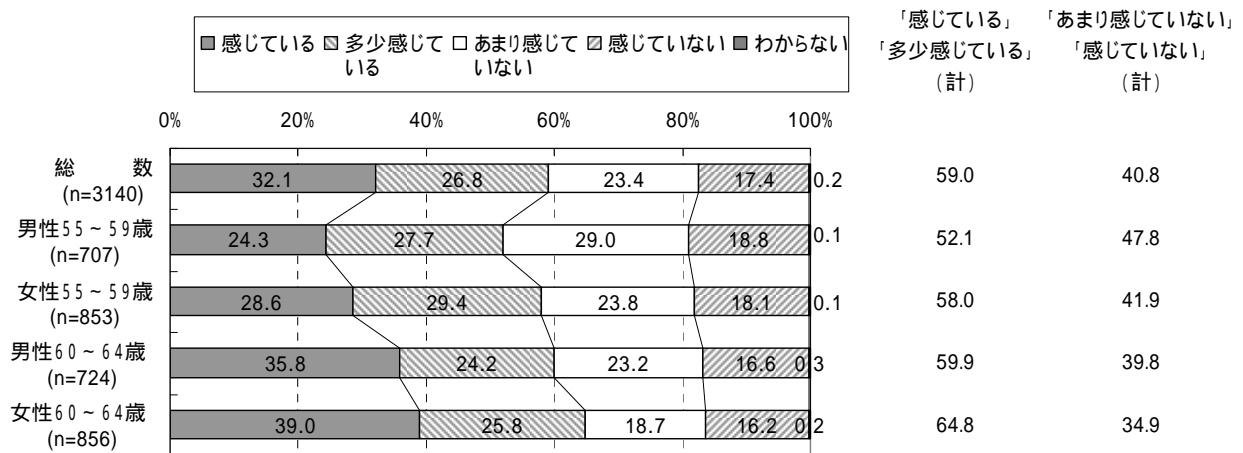
## 1. 生活に関する事項

6割(59.0%)の人が時間的なゆとりを感じている。また、現在仕事をしていない人の方が時間的なゆとりを感じている人が多い。

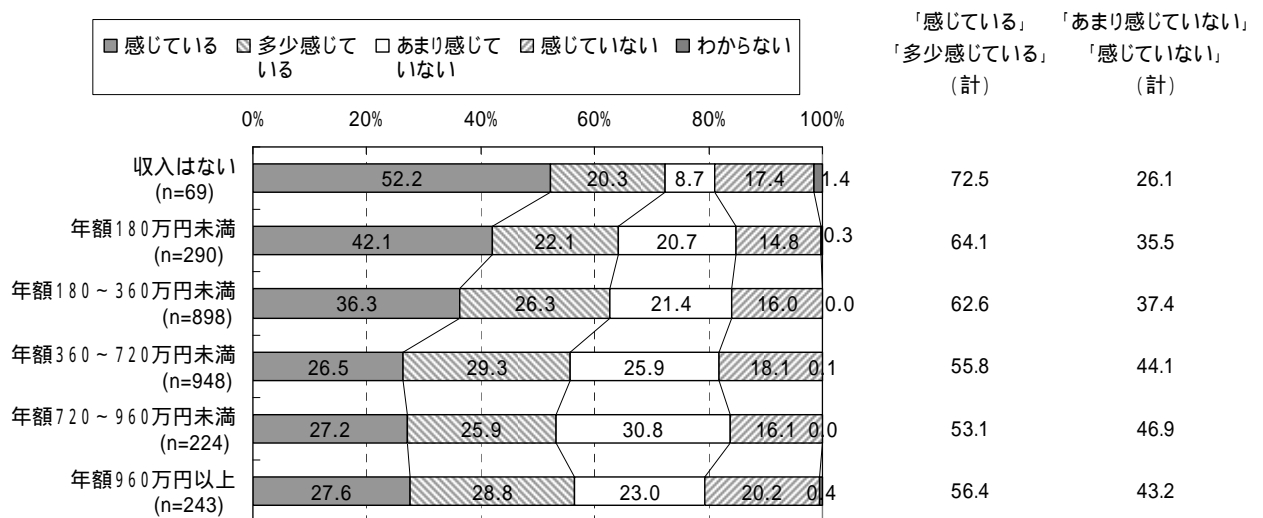
- 時間的なゆとりを感じている人は59.0%であり、性・年齢別でみると、50代・60代ともに男性よりも女性の方がゆとりを感じている人が多い。また、現在の就業の有無別にみると、就業していない人のほうが時間的なゆとりを感じている人が多い。(Q1)

### Q1 「あなたは、現在、日常的な生活の中で時間的なゆとりを感じていますか。」

#### <男女・年齢別>



#### <現在の就業の有無別>

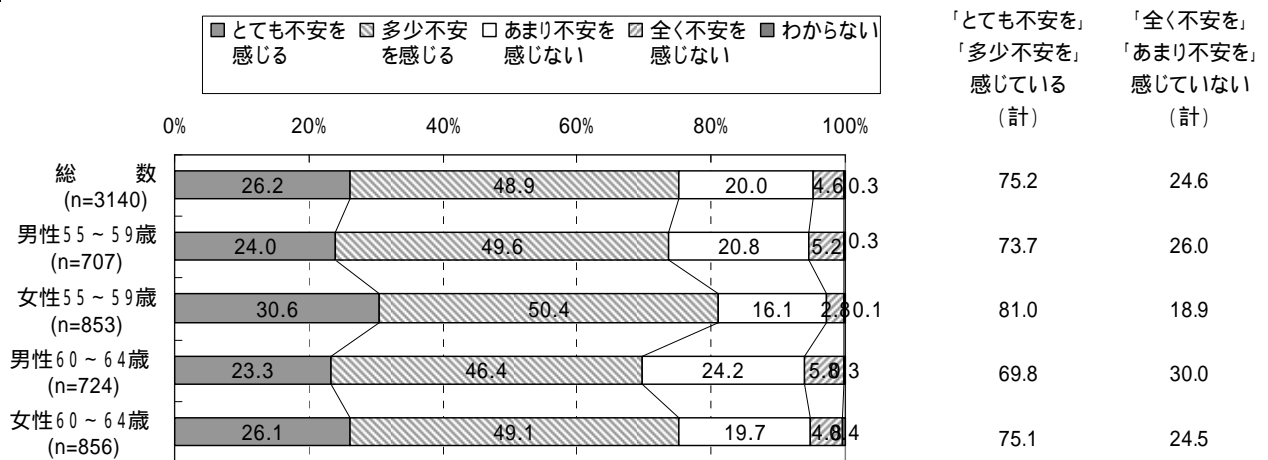


4人に3人(75.2%)が高齢期の生活に不安を感じている。不安の主な理由は「健康」・「収入」・「介護」。

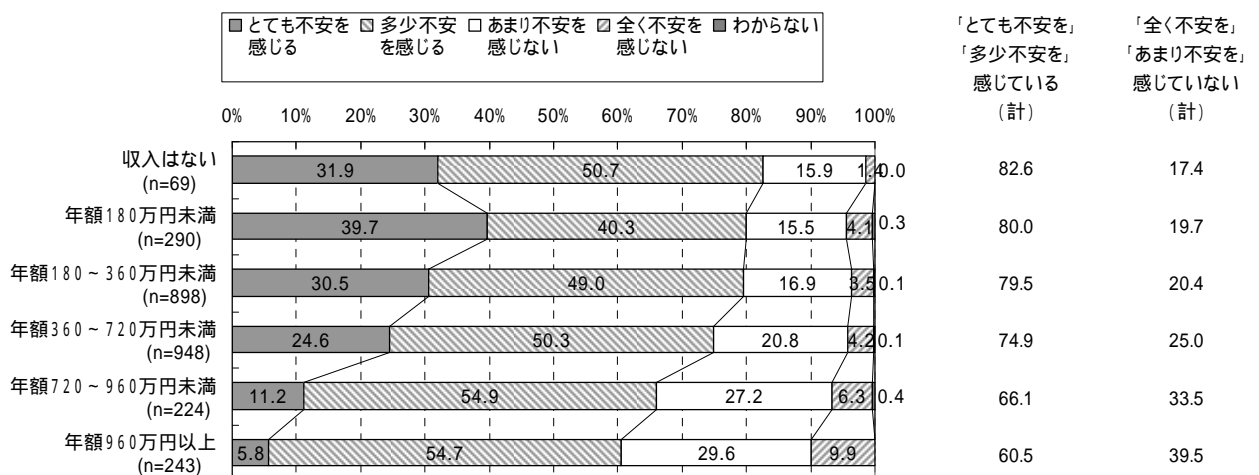
- ・ 高齢期の生活について、4人に3人(75.2%)が不安を感じている。性・年齢別でみると、50代・60代ともに男性よりも女性の方が不安を感じている人が多い。また、全収入額別にみると、収入が少ないほど生活に「不安を感じる」割合が高く、年額180万円未満の層では「とても不安を感じる」人は39.7%となっている。(Q5)
- ・ 不安を感じると回答した人の73.2%が「自分や配偶者の健康や病気のこと」、53.2%が「生活のための収入のこと」、53.0%が「寝たきりなど介護が必要になること」が不安であると回答している。(Q5SQ)

Q5 「あなたは、高齢期におけるご自分の日常生活全般について不安を感じますか」

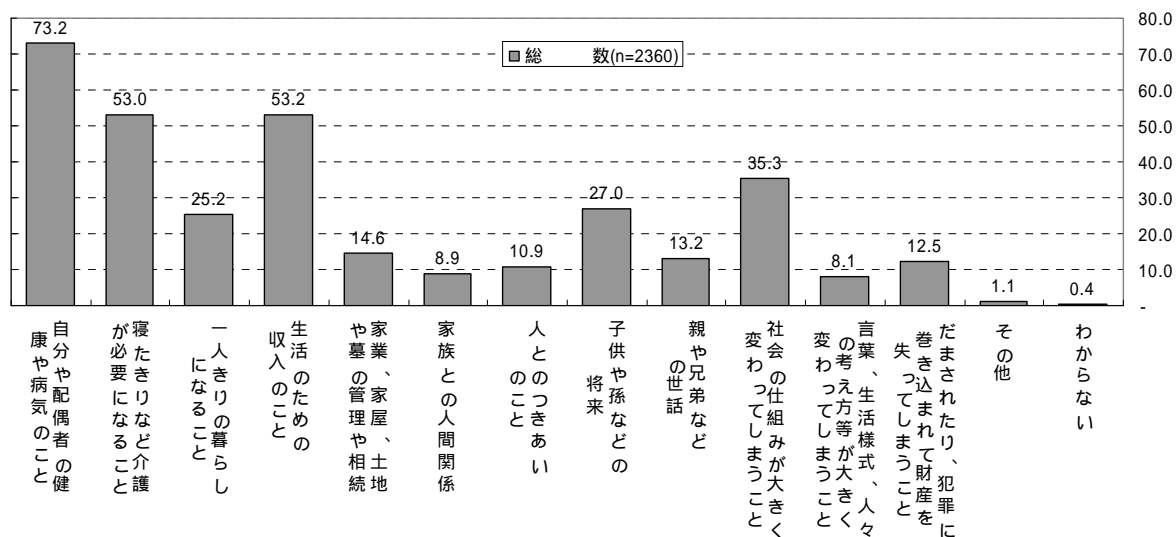
<男女・年齢別>



<全収入額別>



Q5SQ 不安を感じるのは、どのようなことですか。(複数回答)



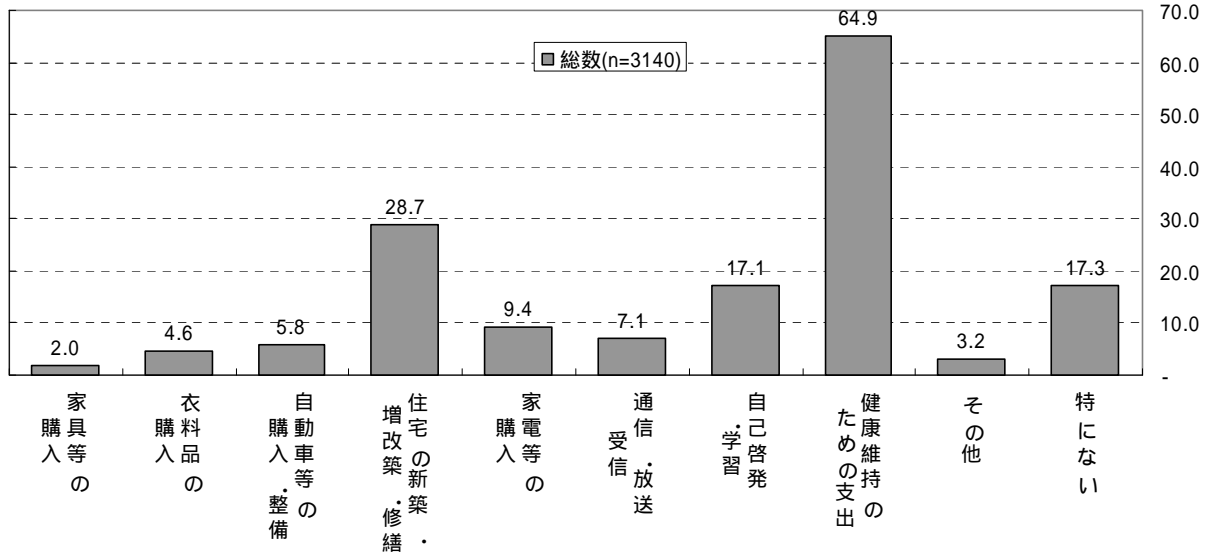
(対象はQ5で「とても不安を感じる」「多少不安を感じる」と回答した人)

## 2. 消費に関する事項

高齢期に備え、優先的に支出を考えていることは「健康維持のため」(64.9%)と「住宅の新築・増改築・修繕」(28.7%)

- ・「高齢期に備え、優先的にお金を使いたいと考えているもの」は、「健康維持のための支出」が64.9%、「住宅の新築・増改築・修繕」が28.7%であった。

Q6 あなた方ご夫婦(あなた)が、高齢期に備えて、優先的にお金を使いたいと考えているものについて、この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

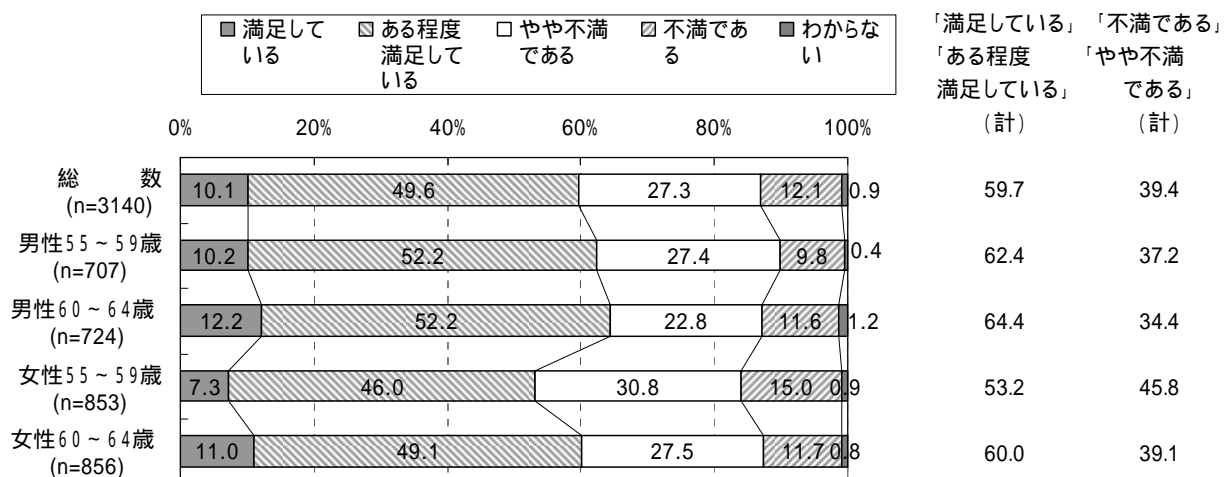


4割(39.4%)が消費生活に不満を感じている。不満の主な内容は、「医療・医薬品の費用・価格」(60.3%)、「食料品への不信・価格」(50.6%)。

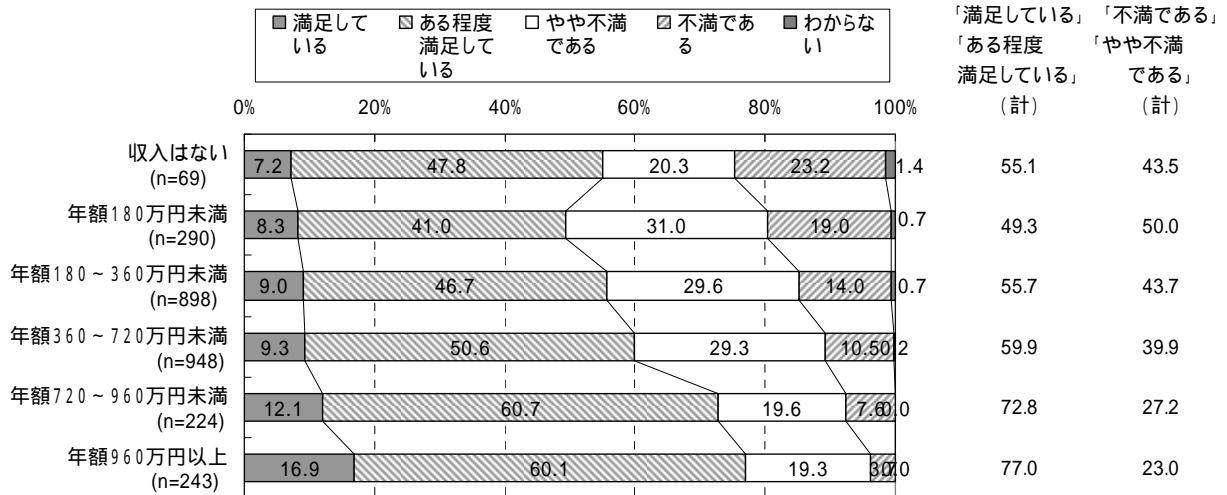
- ・現在の消費生活全般に「不満である」、「やや不満である」と回答した人の合計は39.4%であり、性・年齢別でみると、50代・60代ともに男性よりも女性の方が「不満である」と回答した人が多い。また、全収入額別に見ると収入が少ない方が「不満である」傾向が見られる。(Q7)
- ・「不満である」と回答した人の60.3%が「医療・医療品」、50.6%が「食料品」に不満を感じている。(Q7SQ)

Q7 あなたは、現在の消費生活の全般的な状況について、満足していますか。

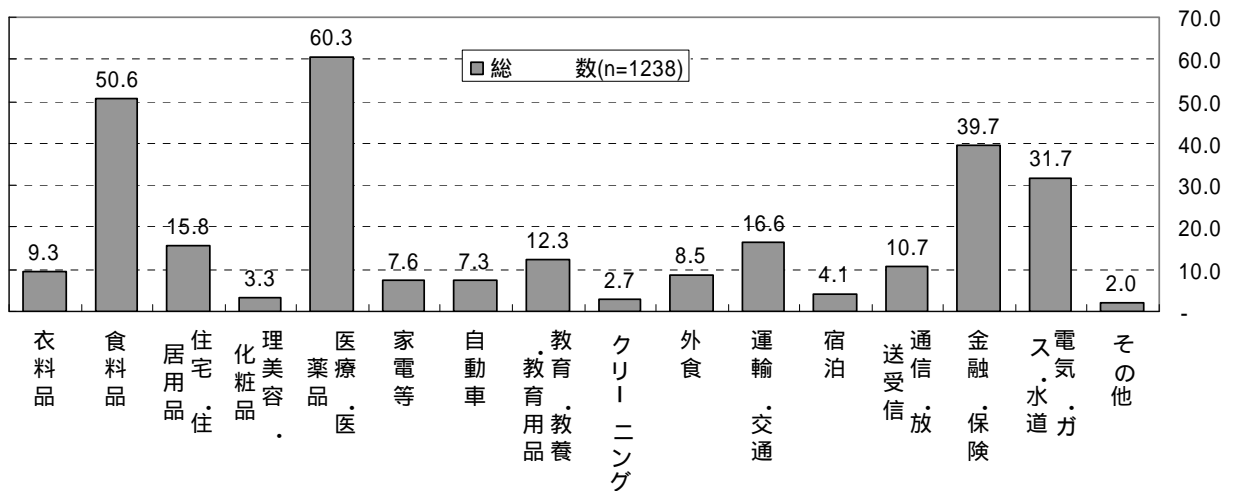
<男女・年齢別>



< 全収入額別 >



Q7SQ1 あなたが、不満を感じているのは、どのような商品・サービスについてでしょうか。  
この中からいくつでもあげてください。(複数回答)



(対象はQ7で「やや不満である」「不満である」と回答した人)

Q7SQ2 あなたが、不満に思う理由は何ですか。(複数回答)

< 主な不満の理由 >

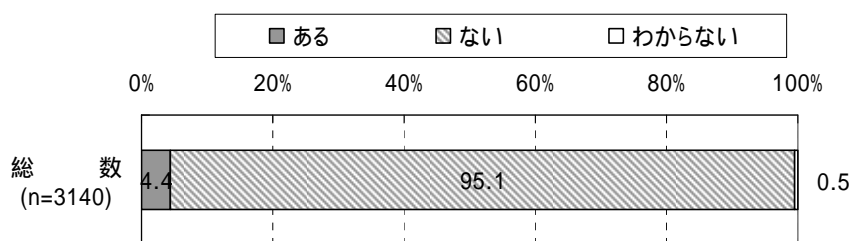
食料品 (n=627)		医療・医薬品 (n=747)		金融・保険 (n=491)		電気・ガス・水道 (n=392)	
理由	回答 (%)	理由	回答 (%)	理由	回答 (%)	理由	回答 (%)
国産品が少ない	59.5	費用が高い	62.4	預貯金の利子が低い	75.4	使用料金が低い	92.1
賞味期限・原産国・食品添加物など食品表示どおりか不信を感じる	59.5	価格が高い	52.5	保険料が高い	68.8	修理・出張費が高い	36.2
価格が高い	59.3	診察の時に待たされる	42.8	保険の保障の仕組みや内容の説明が十分でない	44.6	機器・器具の価格が高い	27.3
食品添加物が多すぎる	55.3	副作用や薬害の心配がある	40.8	ローンなどの利息が高い	36.0	機器・器具の設置(交換)費が高い	22.4

(対象はQ7SQ1で各商品・サービスにおいて不満を感じたと回答した人)

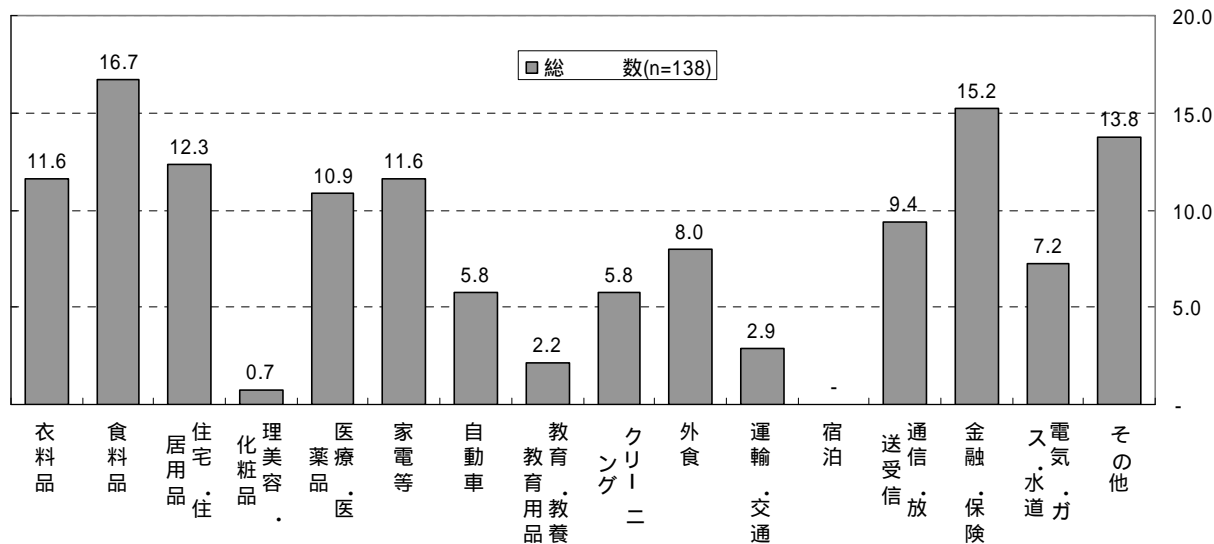
商品・サービス購入による被害を受けた人は 4.4%。被害を受けた商品は、「食料品」(16.7%)、「金融・保険」(15.2%)

- ・ 最近 2 年間に商品・サービスの購入等で、経済的・身体的な被害を受けたことがある人は、4.4%であった。被害を受けた商品として、「食料品」が 16.7%、金融・保険が 15.2%であった。(Q8、Q8SQ)

Q8 あなたは、この1、2年の間に商品・サービスの購入等で、経済的・身体的な被害を受けたことはありますか。



Q8SQ それは、どのような商品・サービスでしょうか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)



(対象はQ8で被害を受けたと回答した人)

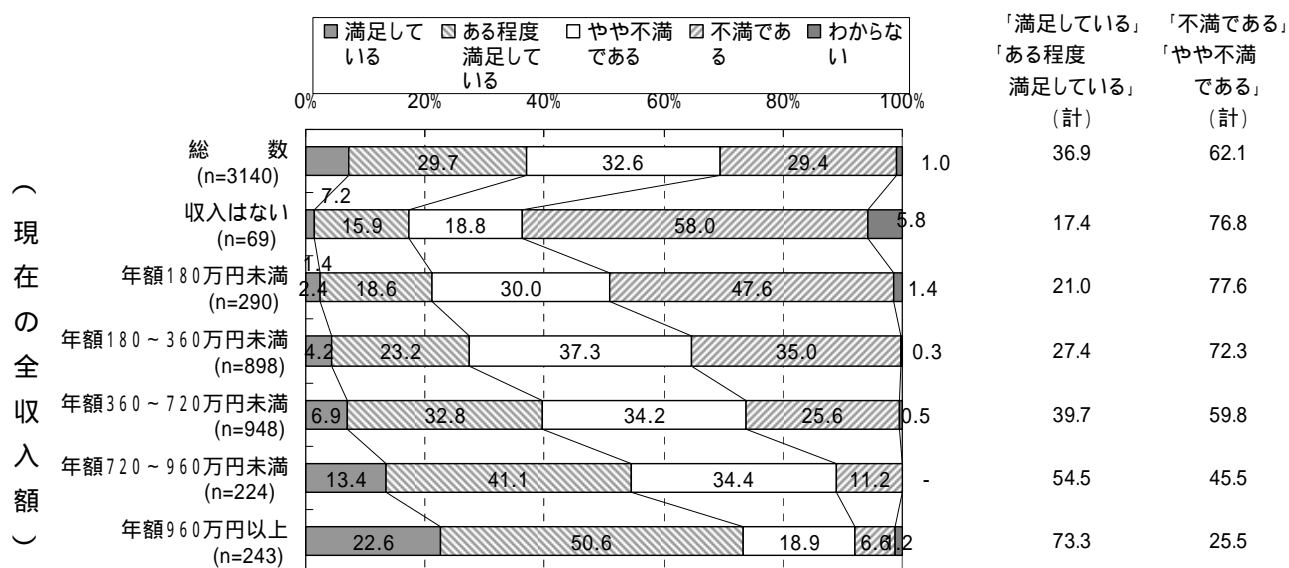
### 3. 収入・資産に関する事項

現在の収入額・貯蓄額に不満を持つ人は6割を超える。

- ・ これからの高齢期に備える上で、現在の「収入額」に不満を感じている人は62.1%、現在の「貯蓄額」に不満を感じている人は67.9%。満足が不満を上回るのは全収入額では「年額720～960万円」、貯蓄額では「2,000万円～3,000万円」以上の層である。(Q11)

Q11 あなたは、これからの高齢期に備える上で、あなた方ご夫婦(あなた)の現在の(1)収入額、(2)貯蓄額に満足していますか。

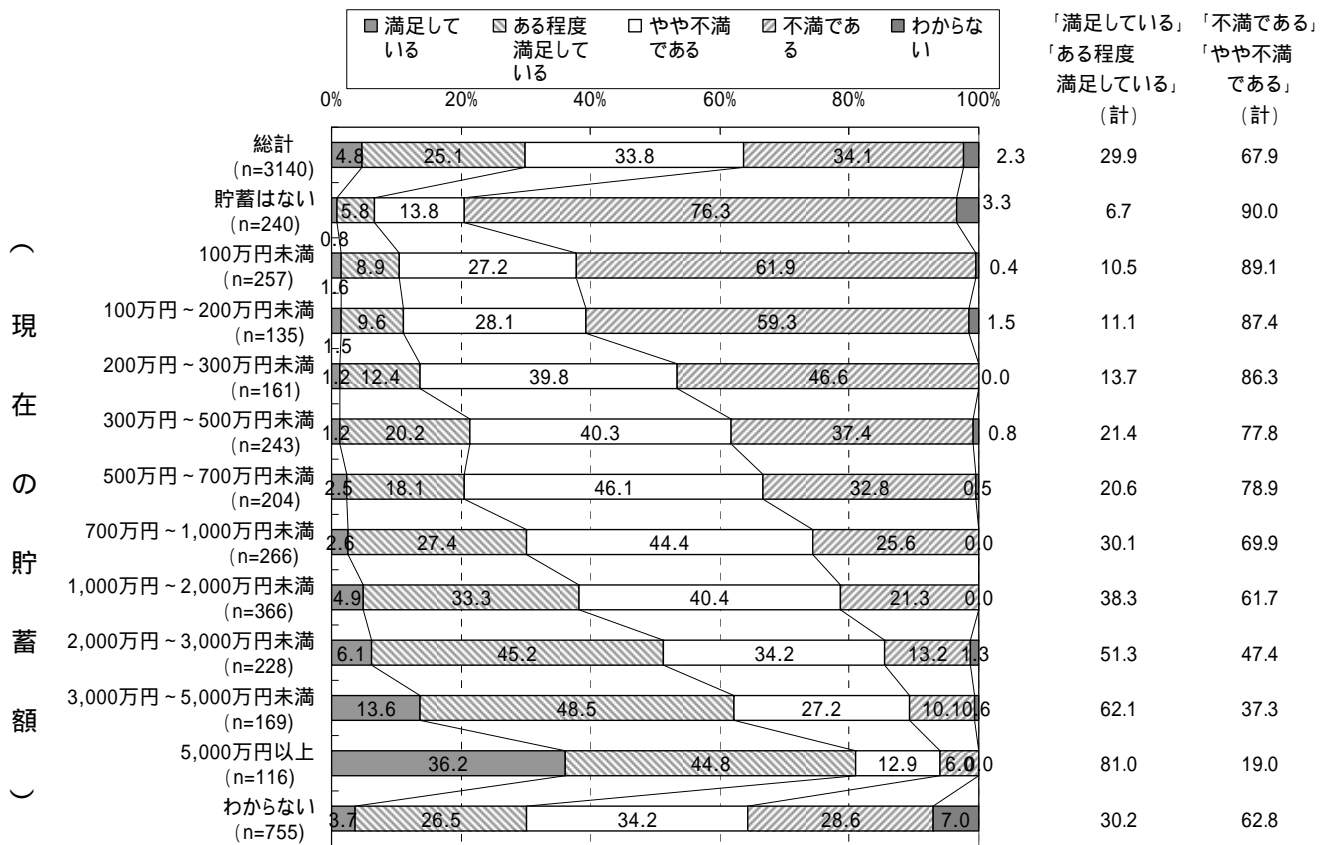
(1)収入額(現在の全収入額別の満足度)



(注)「現在の全収入額」は「あなた方ご夫婦(あなた)の収入をすべて合計すると、税込みで1か月当たりの平均額(ボーナスがある場合は、それを含めて平均した額)はおよそいくらくらいになりますか。」

(F10)への回答を年額に換算したものである。

(2) 貯蓄額（現在の貯蓄額別の満足度）



(注) 「現在の貯蓄額」は「あなた方ご夫婦(あなた)の貯蓄(預貯金、信託、債券、株式、保険など)の総額は、およそどれくらいになりますか」(Q12)への回答である。

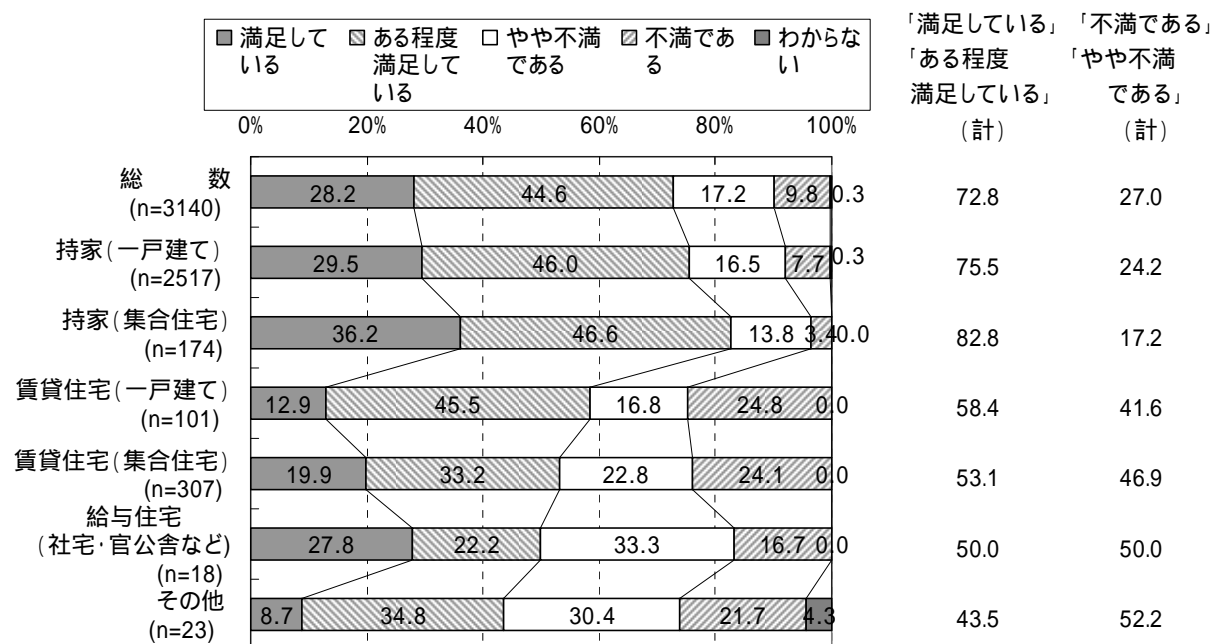


#### 4. 住宅に関する事項

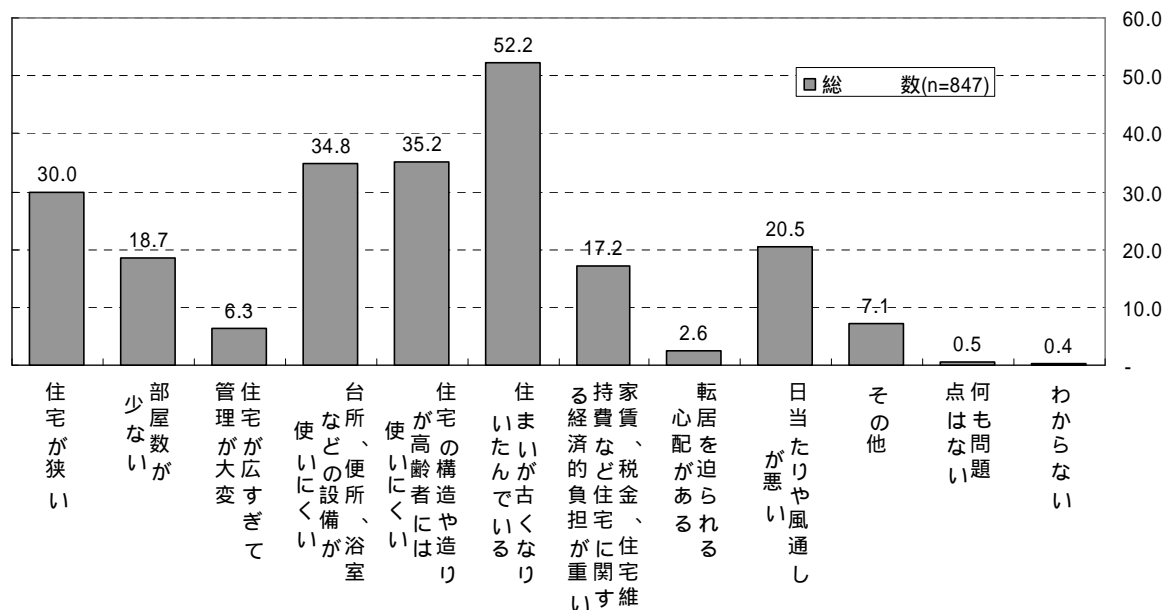
現在の住宅に不満を持つ人は 27.0%、賃貸住宅に住む人は 4 割以上が住宅に不満を持っている。主な不満の内容は「古い」・「使いにくい」。

- ・ 現在住んでいる住宅に不満を感じている人は 27.0%であり、住居形態別に比較すると、持ち家よりも借家の方が、満足度が低くなっている。不満の内容として、「住まいが古くなりいたんでいる」が 52.2%、「住宅の構造や作りが高齢者には使いにくい」が 35.2%、「台所、便所、浴室などの設備が使いにくい」が 34.8%であった。(Q17、Q17SQ)

#### Q17 あなたは、現在お住まいの住宅について、満足していますか。



#### Q17SQ それでは、どのようなことに不満を感じていますか。(複数回答)

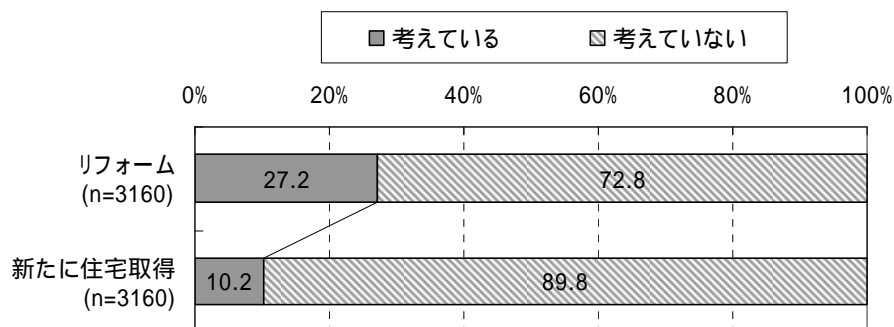


(対象はQ17で「不満である」「やや不満である」と回答した人)

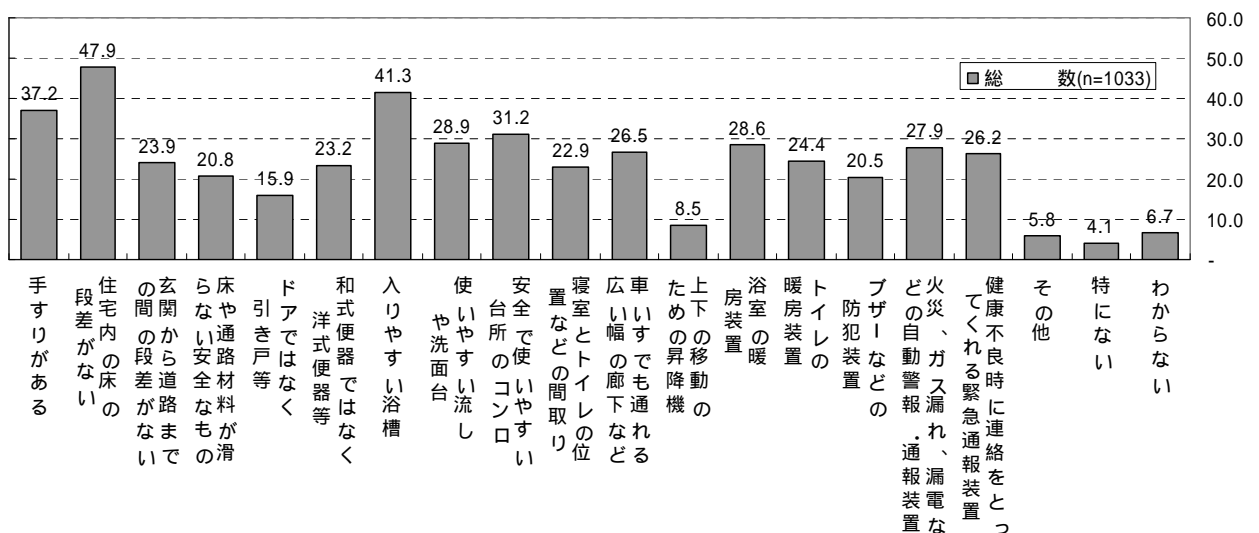
今後、リフォームを考えている人は 27.2%、新たに住宅取得を考えている人は 10.2%。住宅取得・リフォームで重視する点は、「床の段差」(47.9%)、「浴室の利用しやすさ」(41.3%)、「手すり」(37.2%)。

- ・ 高齢期に備え、「リフォームを考えている人」は 27.2%、「新たに住宅取得を考えている人」は 10.2%であり、重視する点としては「住宅内の床の段差がない」が 47.9%、「入りやすい浴槽」が 41.3%、「手すり」が 37.2%であった。(Q16、Q16SQ)

Q16 あなたは、今後、高齢期に備えて、現在お住まいの住宅の改造(リフォーム)や新たな住宅の取得をお考えですか。



Q16SQ 住宅の改造(リフォーム)や新たな住宅の取得に際し重視することはどのようなことですか。(複数回答)



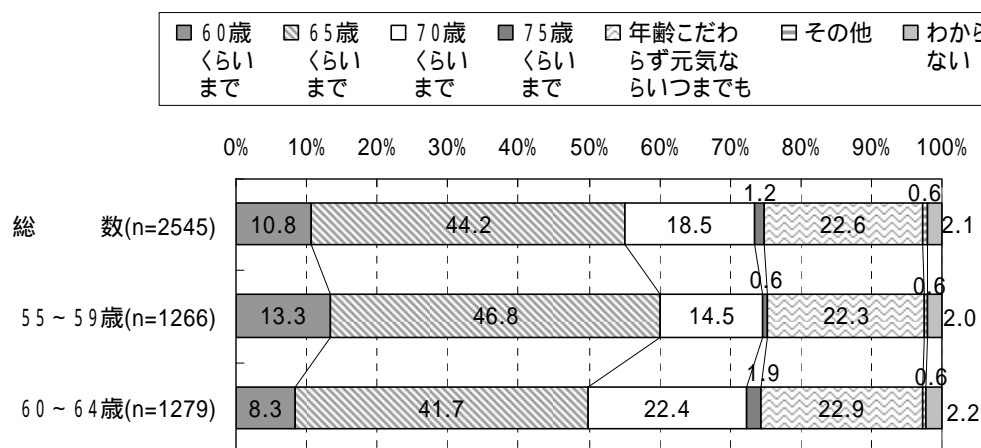
(対象はQ16「あなたは、今後、高齢期に備えて、現在お住まいの住宅の改造(リフォーム)や新たな住宅の取得をお考えですか」で、「考えている」と回答した人)

## 5. 就労に関する事項

「元気ならいつまでも働くことが良い」と考える人が 22.6%。一番多いのは「65歳くらいまで」で 44.2%。

- 「何歳くらいまで収入のある仕事をするのがよいと思うか」という問いに、一番多い回答は「65歳くらいまで」で 44.2%、続いて「年齢にこだわらず、元気ならいつまでも」が 22.6%、「70歳くらいまで」が 18.5%、「60歳くらいまで」が 10.8%であった。(Q18SQb)

Q18SQb あなたは、一般論として、何歳くらいまで収入のある仕事をするのがよいと思いますか。

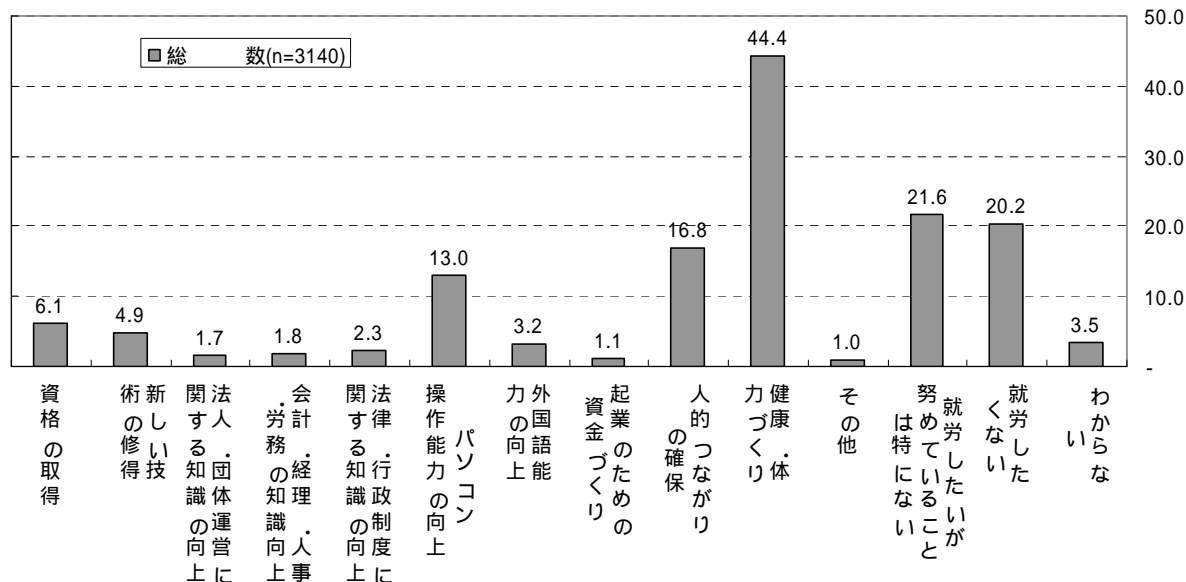


(対象は、現在の職業が「契約・派遣・臨時・パート」以外の人)

44.4%が就労のために「健康・体力づくり」に努めている。

- 高齢期における就労への準備として努めていることを聞いたところ、「健康・体力づくり」が 44.4%、「人的つながりの確保」が 16.8%、「パソコン操作能力の向上」が 13.0%であった。「就労したいが努めていることは特になし」と回答した人は 21.6%であった。(Q19)

Q19 あなたが、高齢期における就労に備えて、努めていることはありますか。(複数回答)



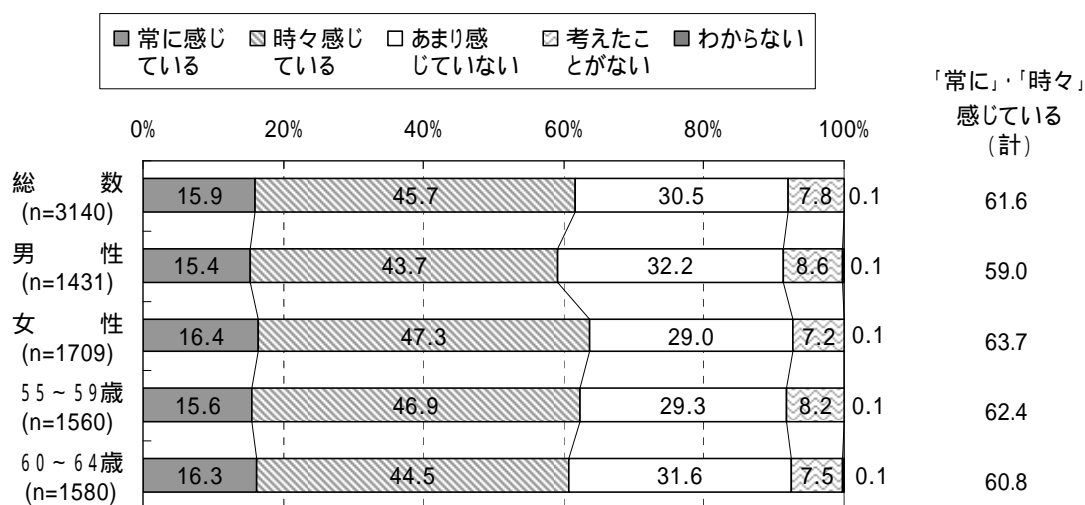
## 6. 健康に関する事項

健康への不安を「常にかけている」人が 15.9%、「時々かけている」人は 45.7%。

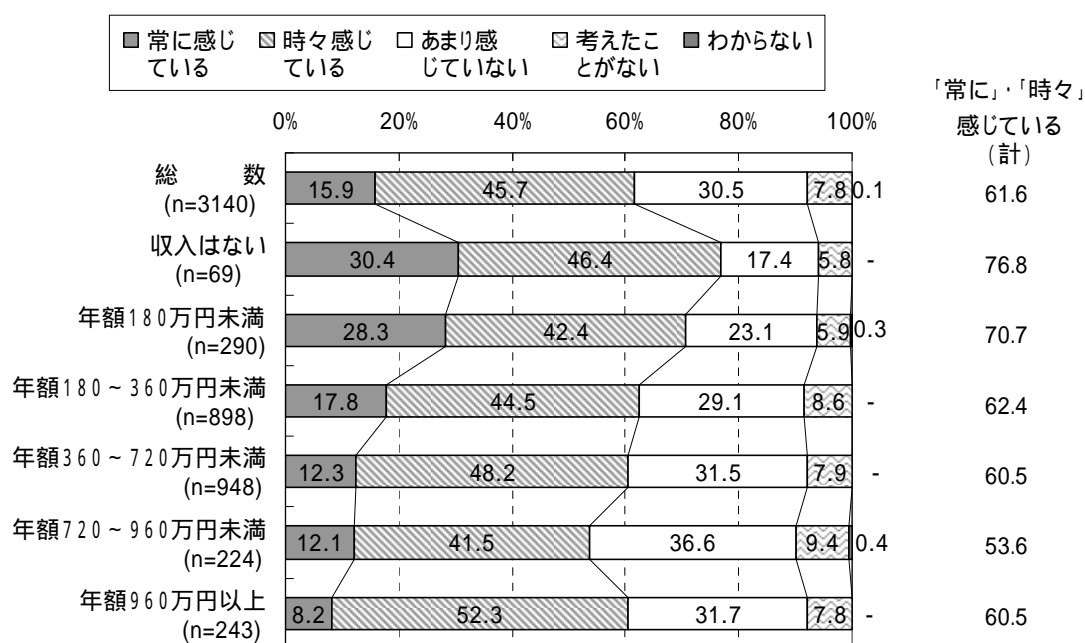
- ・現在の健康状態に不安を感じている人は 61.6%であり、50 代後半と 60 代前半では差がない。また、年収が 180 万円未満の層では 7 割以上の人々が健康に不安を感じていると答えている。(Q21)
- ・健康の維持増進のために心がけていることを聞いたところ、「栄養のバランスのとれた食事をする」が 54.6%、「規則正しい生活を送る」が 47.5%、「休養や睡眠を十分にとる」が 47.3%、「散歩やスポーツをする」が 46.4%であった。(Q20)

Q21 あなたは、ご自分の現在の健康状態について不安を感じることがありますか。

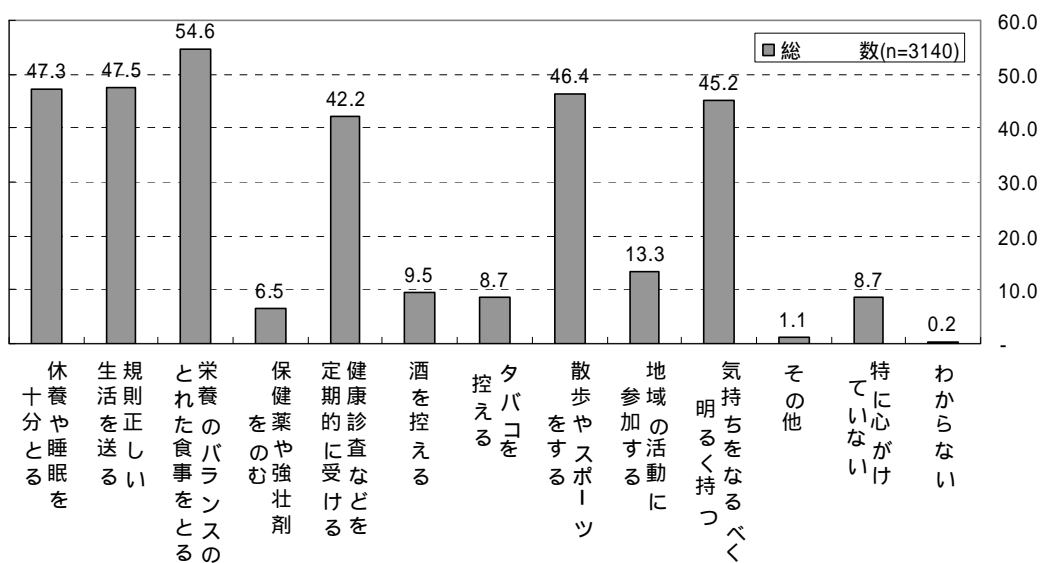
<男女・年齢別>



<全収入別>



Q 2 0 あなたが、高齢期に備えて、ご自分の健康の維持増進のために心がけていることはありますか。

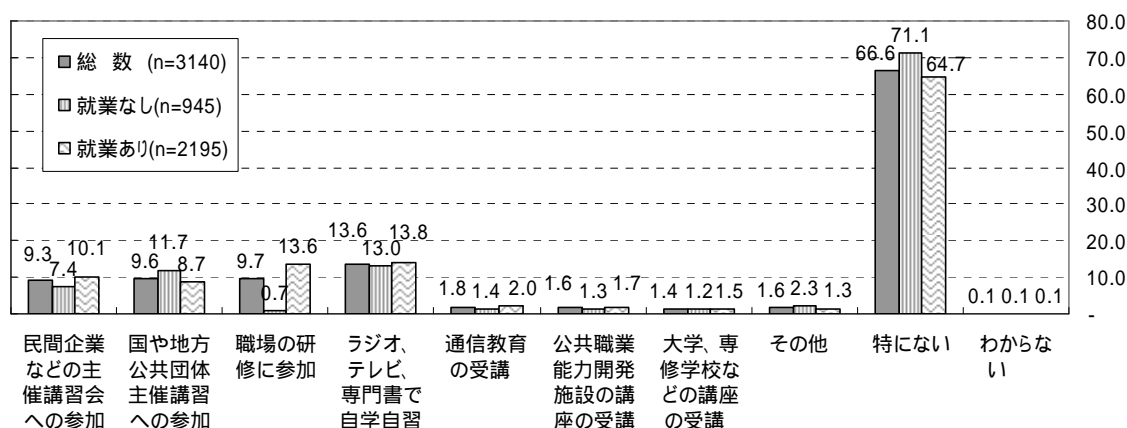


## 7. 自己啓発・学習に関する事項

3人に2人(66.6%)は高齢期に備えた「自己啓発・学習」を行っていない。

- ・ 高齢期に備えて最近1年間の自己啓発・学習について行ったかどうかを聞いたところ、「特にない」と回答した人は66.6%を占めた。自己啓発・学習を行ったと回答した中では「ラジオ、テレビ、専門書、インターネットなどでの自学自習」が最も多く、13.6%であった。(Q22)

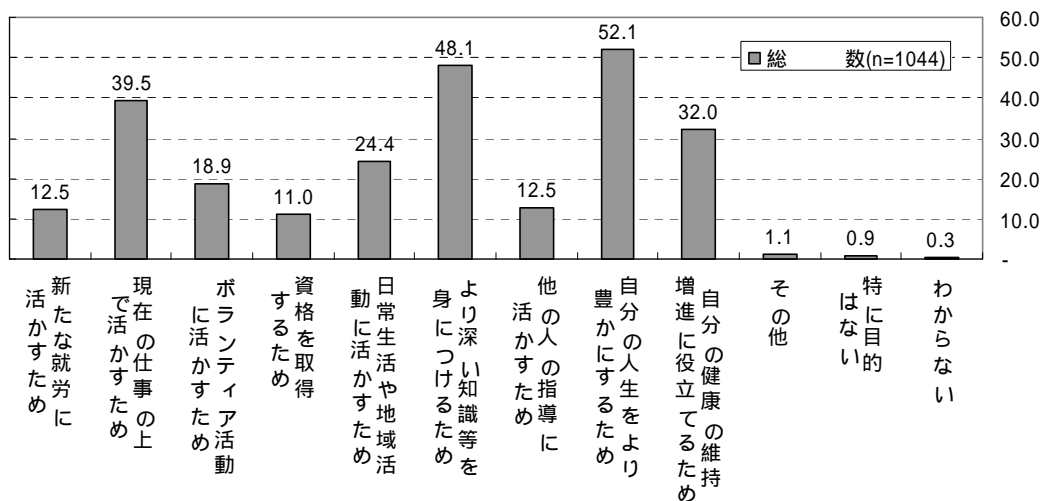
Q22 あなたは、これから迎える高齢期に備えて、この1年間に、ご自分の能力や意識を高めるために、参加したり、行ったりしたことはありますか。(複数回答)



「自己啓発・学習」の主な目的は「人生をより豊かにするため」(52.1%)、「より深い知識を身につけるため」(48.1%)。

- ・ 自己啓発・学習の目的は「自分の人生をより豊かにするため」が52.1%、「より深い知識等を身につけるため」が48.1%であった。(Q22SQ1)

Q22SQ1 あなたが、それらに参加したり、行ったりした目的は何ですか。(複数回答)



(対象はQ22で何らかの自己啓発・学習を行ったと回答した人)

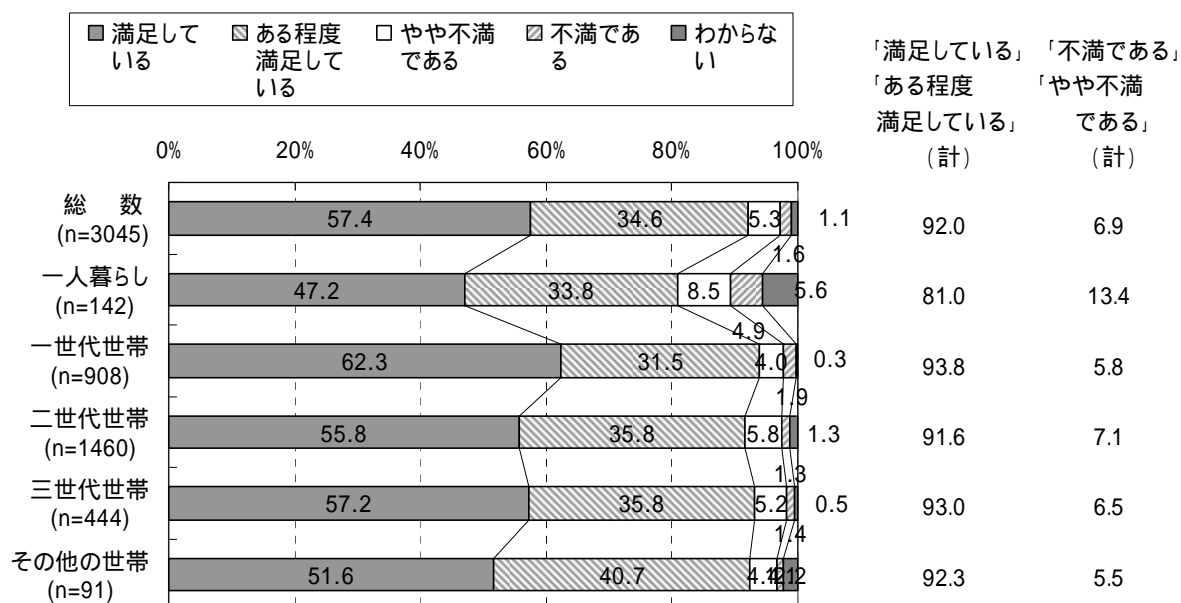
## 8. 家族に関する事項

92.0%が現在の家族関係に満足。

- ・ 「家族がいる」と回答した人で、現在の家族関係に満足していると回答した人は 92.0%であった。世帯構成別では、「一人暮らし世帯」で満足していると回答した人は 81.0%にとどまった。
- ・ また、健康状態に不安がある人は家族関係についての満足度が低い。(Q 25SQ)

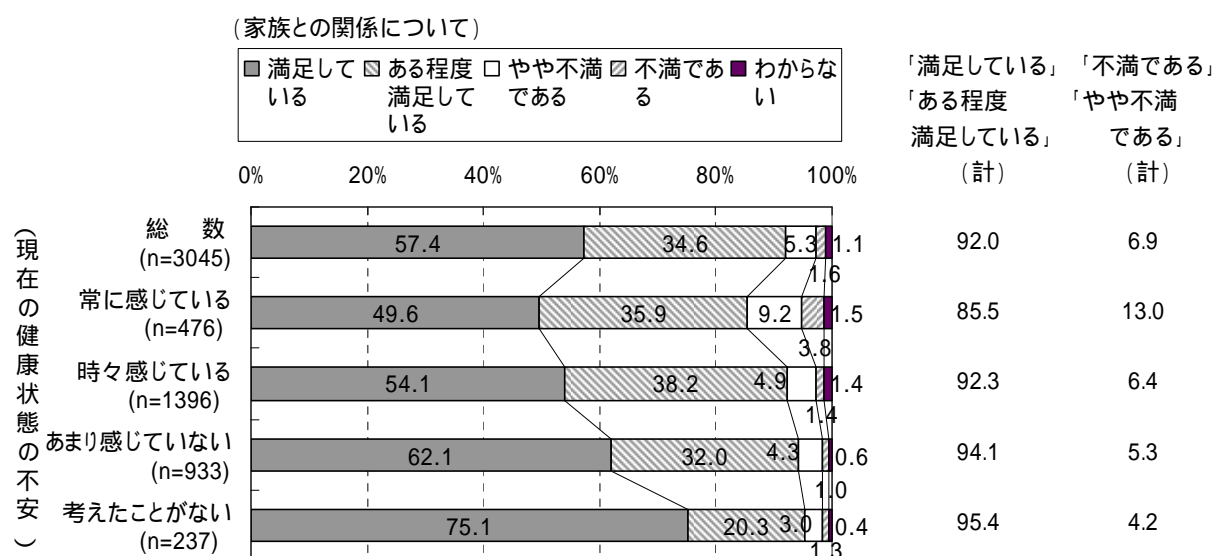
Q 25 SQ あなたは、現在の家族の関係に満足していますか。

< 世帯構成別 >



(対象はQ25で「家族はいない」と回答した人以外)

< 健康状態別 >



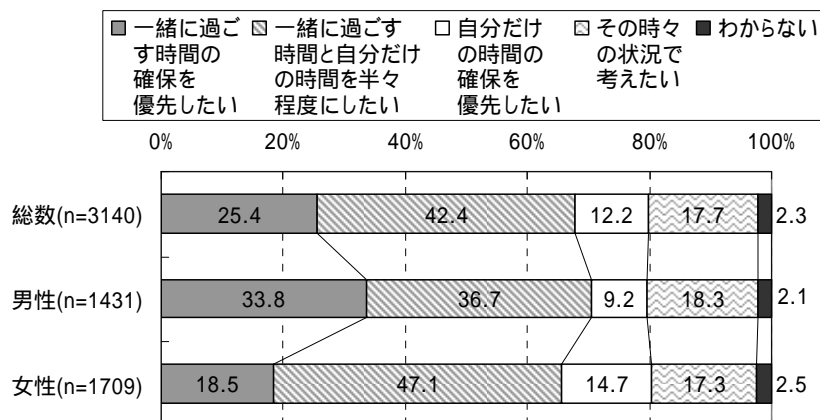
(対象はQ25で「家族はいない」と回答した人以外)

高齢期における配偶者との関係では、男性は一緒に過ごす時間を優先し、女性は自分の時間を優先する傾向が見られる。

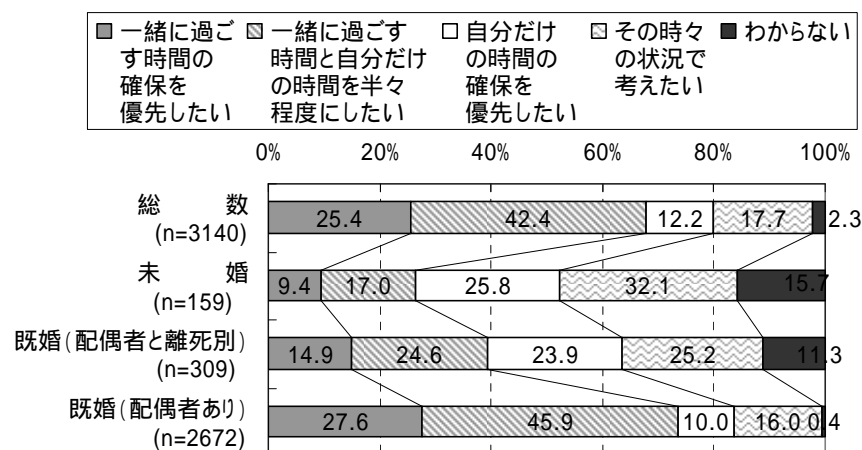
- ・ 配偶者との関係では、「一緒に過ごす時間を優先したい」と回答する人は男性の方が多く、「一緒に過ごす時間と自分の時間は半々程度」、「自分だけの時間を優先したい」と回答する人は女性の方が多い。(Q23)

Q23 あなたは、これから迎える高齢期において、配偶者と過ごす時間と自分だけの時間について、どのようにお考えですか。配偶者のいない方は、いた場合として、お答えください。

< 男女別 >



< 未婚既婚別 >

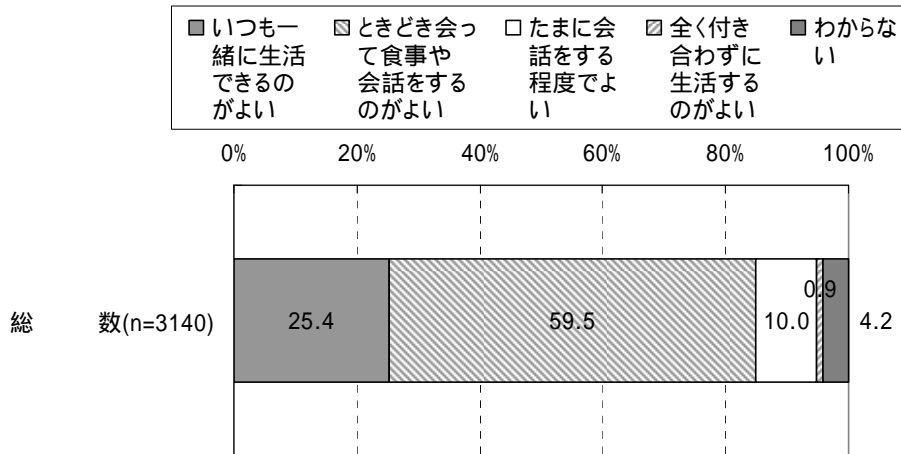




59.5%が子どもや孫と「『ときどき』会っての食事や会話」を望んでいる。  
 「いつも一緒に生活」を望む人は4人に1人(25.4%)。

- ・ 子どもや孫との関係では、「ときどき会って食事や会話をするのがよい」が59.5%で、「いつも一緒に生活できるのがよい」の25.4%の2倍以上であった。(Q24)

Q24 高齢期における子供や孫との付き合い方について、あなたはどのようにお考えですか。子供や孫のいない方は、いた場合として、お答えください。



9. 近所・友人に関する事項

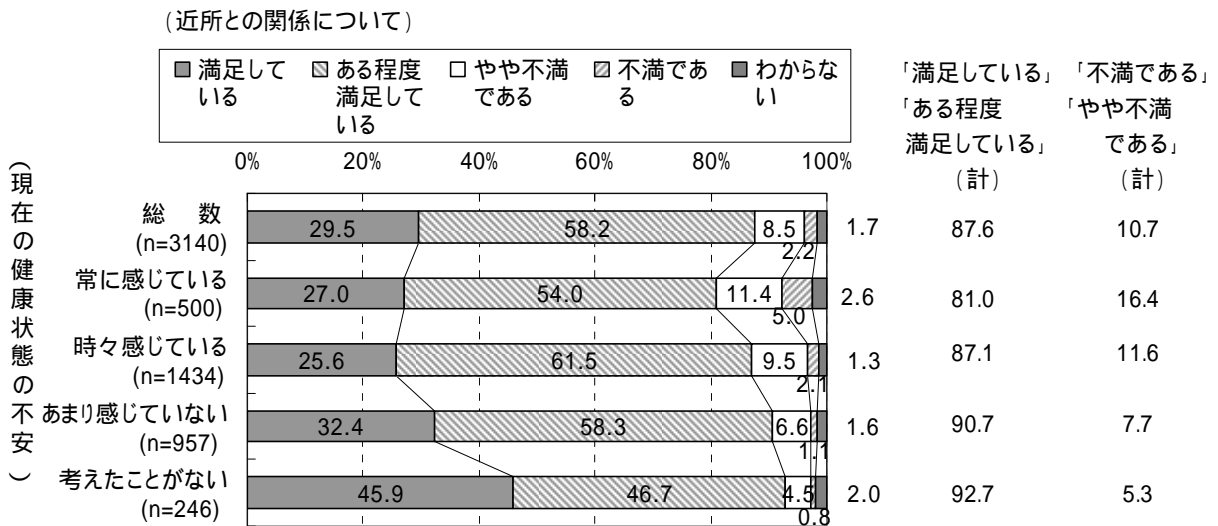
87.6%が「近所との関係」に満足している

- ・ 近所との現在の関係について、「満足している」人は 87.6%であった。また、健康状態に不安を感じている人には、近所との関係について満足度が低い傾向が見られる。
- ・ 住宅形態別では、「一戸建て（持ち家・賃貸住宅）」に住んでいる人の満足度が高く、「集合住宅（持ち家・賃貸住宅）・給与住宅」に住んでいる人の満足度が低い。また、「健康に不安を感じている」人は満足度が低い。（Q30）

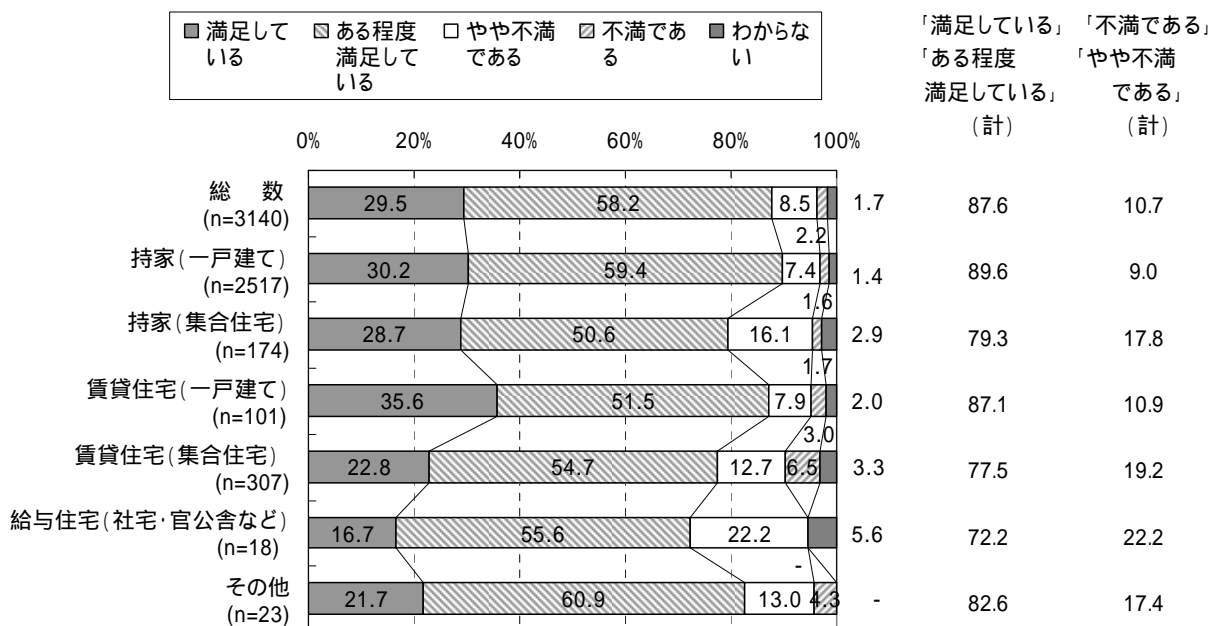
Q30 これから高齢期を迎える中で、あなたは、現在の（1）近所との関係、（2）友人・仲間との関係、について満足していますか。

（1）近所との関係

< 健康状態の不安と近所との関係 >



< 住宅形態別 >



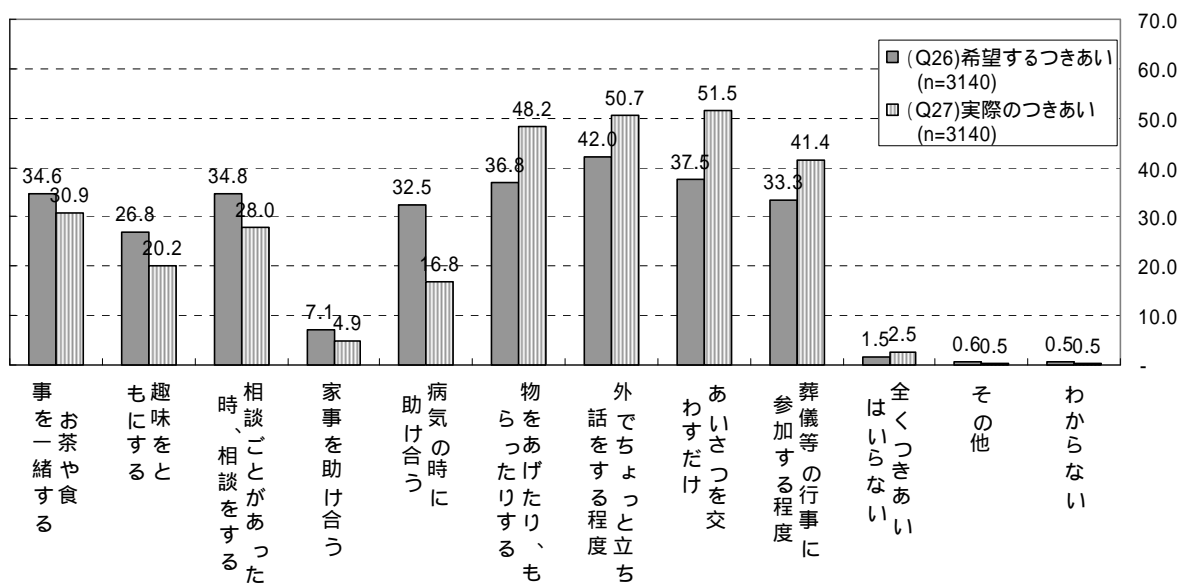
近所の人とは「病気の時に助け合いたい」と思う人が 32.5%であるのに対し、実際に助け合っているケースは 16.8%に留まる。

- ・「希望する近所つきあい」は、立ち話程度、あいさつだけ、相談相手、お茶や食事、病気のときの助け合いなど、行事への参加や趣味まで、約3割から4割と多様。近所つきあいの希望と現実で一番ギャップが大きいのは、「病気の時に助け合う」で希望が 32.5%に対し、現実には 16.8%に留まっている。(Q26、Q27)

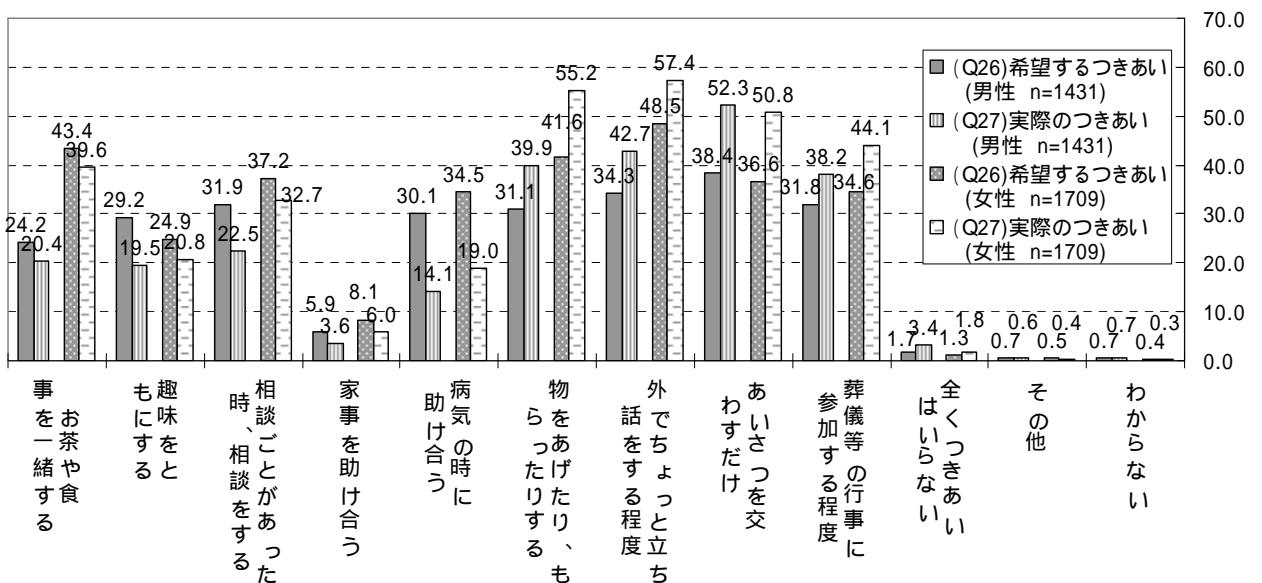
Q26 あなたは、これから迎える高齢期において、親戚以外の近所の方との程度の付き合いを望みますか。(複数回答)

Q27 あなたは、親戚以外の近所の方との程度の付き合いをしていますか。(複数回答)

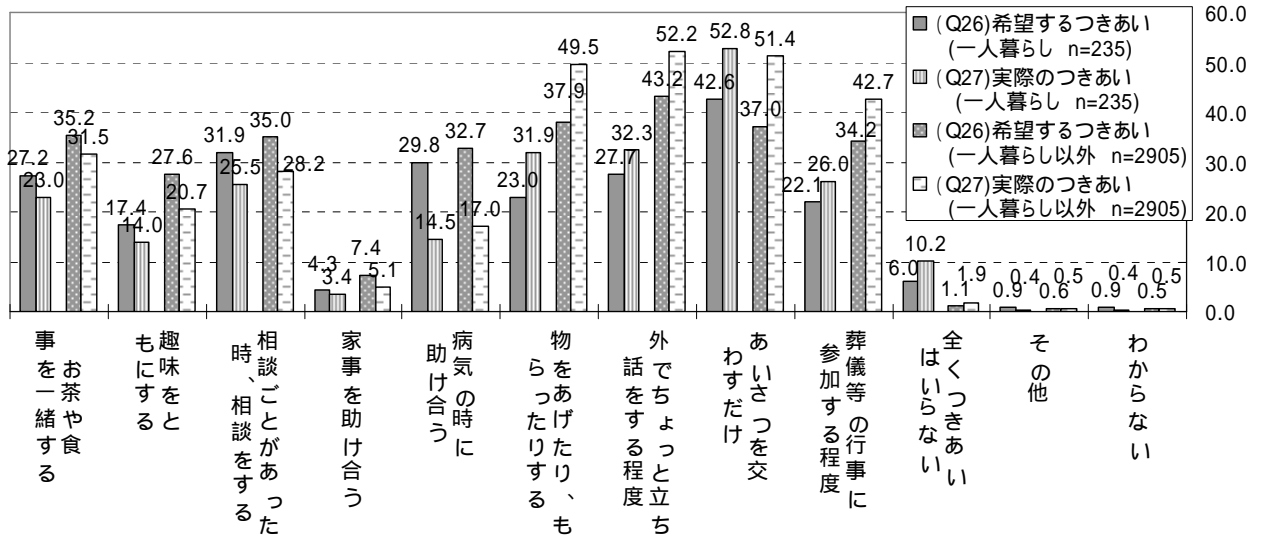
<全体>



<男女別>



<ひとり暮らしとそれ以外別>

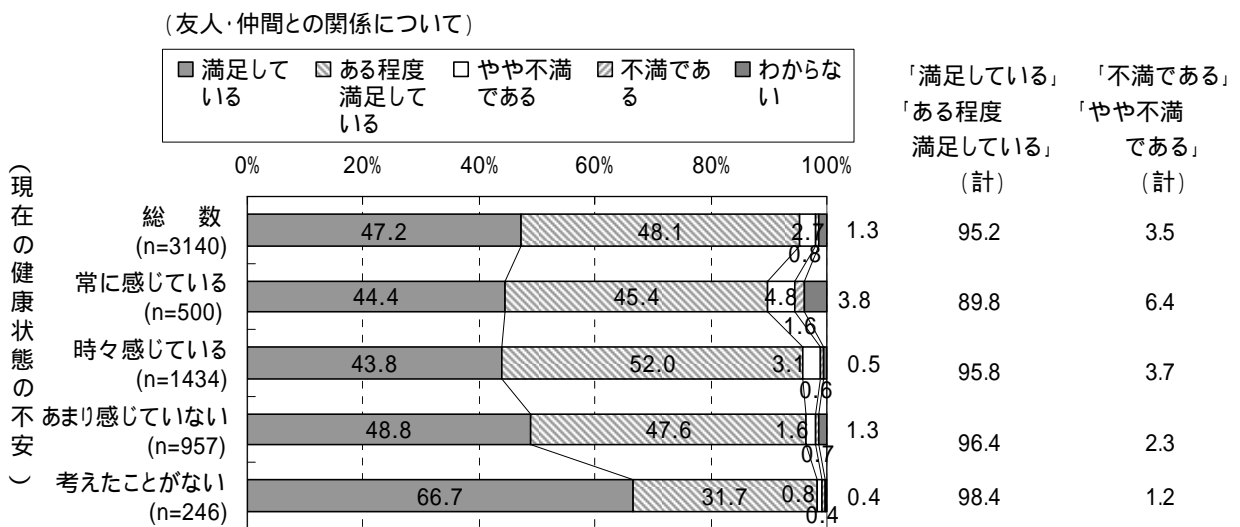


95.2%が「友人・仲間との関係」に満足している。

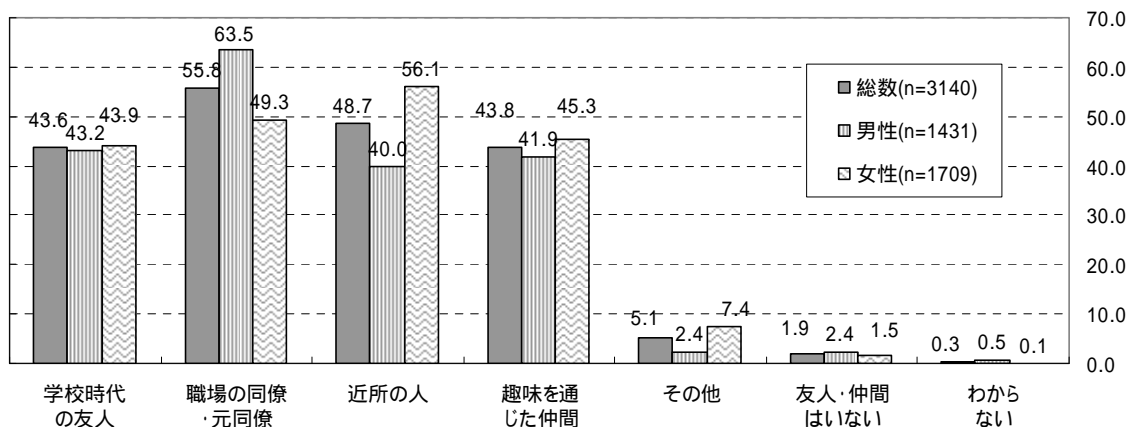
- ・ 友人・仲間との現在の関係について、「満足している」人は 95.2%であった。また満足度と健康状態については強い関係が見られる。(Q30)
- ・ 親しくしている友人・仲間は「職場の同僚・元同僚」、「近所の人」、「趣味を通じた仲間」、「学校時代の友人」。男性は「職場の同僚・元同僚」、女性は「近所の人」の割合が高い。(Q29)
- ・ 今後の関係については、「現在と同様の付き合いでよい」人は 79.4%、「より親密な付き合いをしたい」人は 14.8%であり、「現在より距離をおきたい」人 4.0%を大きく上回った。(Q28)

Q30 これから高齢期を迎える中で、あなたは、現在の(1)近所との関係、(2)友人・仲間との関係、について満足していますか。

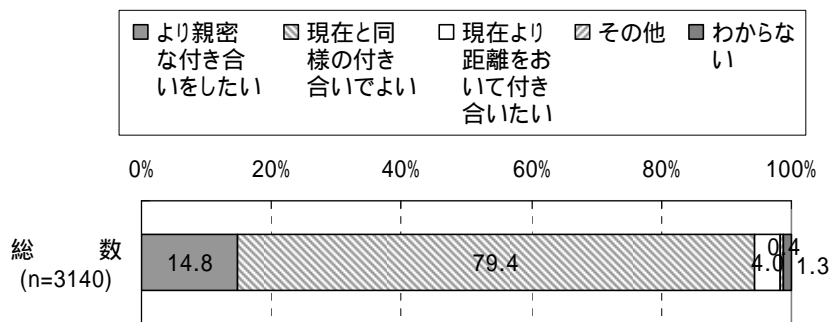
(2) 友人・仲間との関係



Q29 あなたが、ふだん親しくしている友人・仲間は、どのような方ですか。(複数回答)



Q 2 8 あなたは、これから迎える高齢期において、現在親しくしている友人・仲間との関係を、  
どのようにしたいとお考えですか。



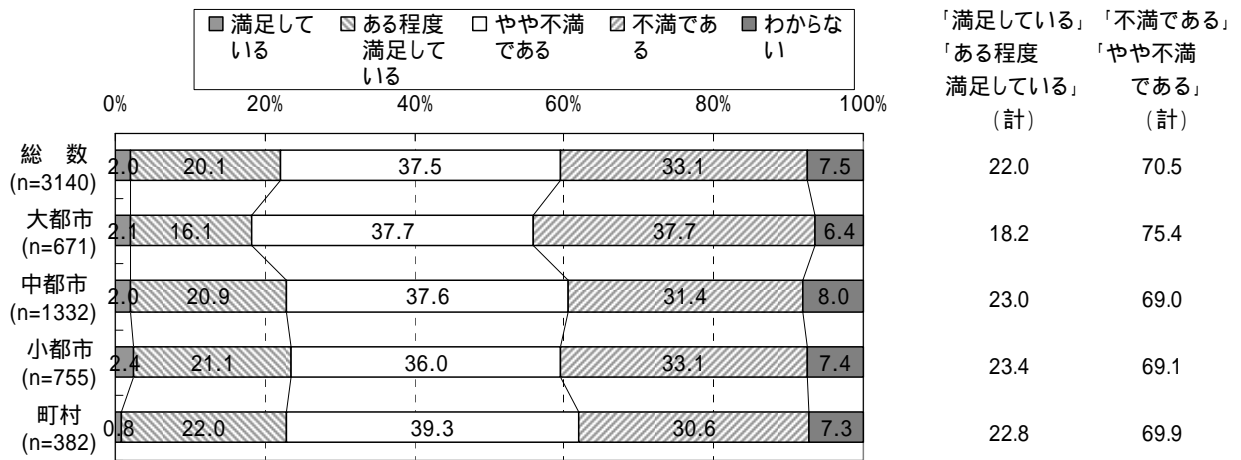
10. 希望する政策に関する事項

「国や地方自治体の高齢社会対策」に「やや不満」は 37.5%、「不満」が 33.1%。

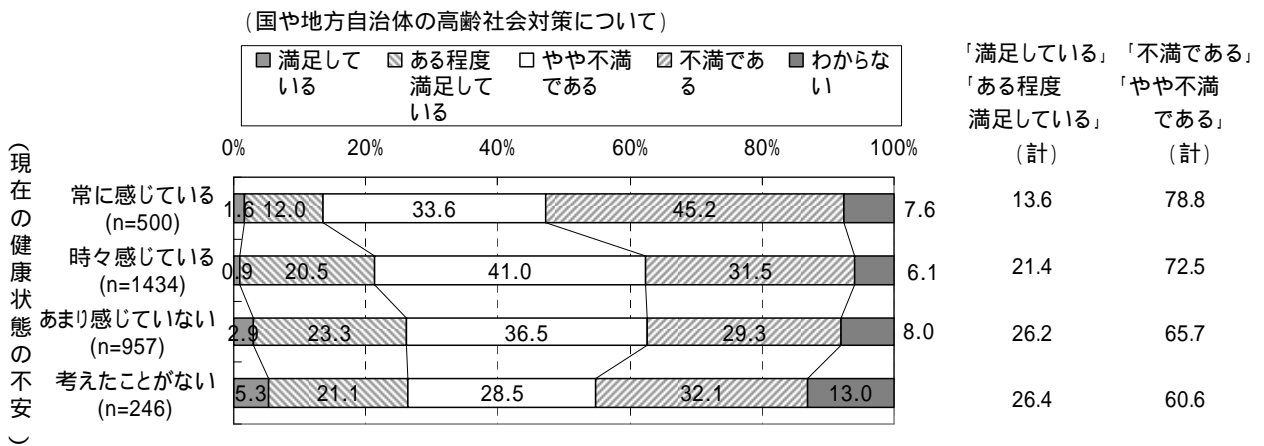
- ・ 「国や地方自治体の高齢社会対策」に「不満を感じている」人は 70.5%であった。都市別では大都市に住んでいる人、また健康に不安を感じている人は、「不満を感じている」と回答した割合がやや高い。(Q31)
- ・ 不満の内容では、「税金や社会保険料が高すぎる」と回答した人が 78.7%と最も多く、続いて「施策の内容がわかりにくい」と回答した人が 48.2%であった。(Q31SQ)

Q31 あなたは、国や地方自治体の高齢社会対策に、満足していますか。

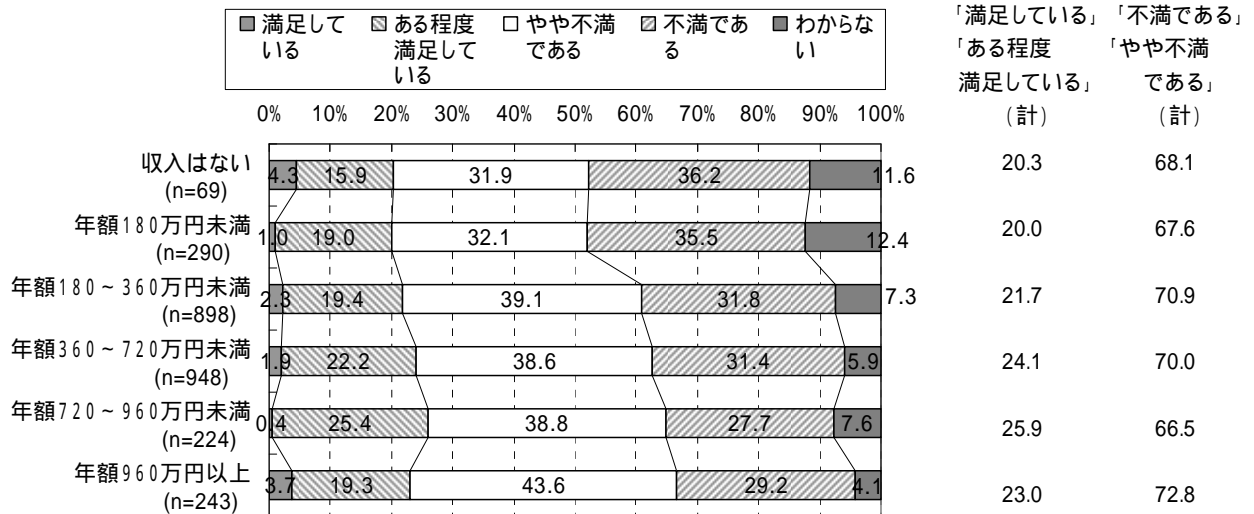
<都市規模別>



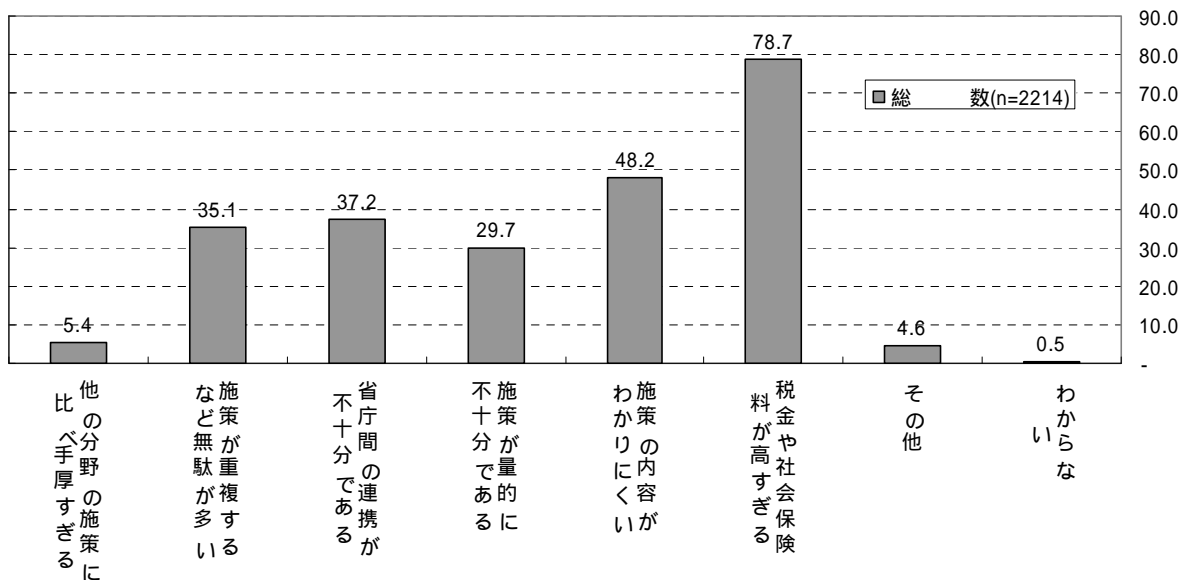
<健康状態の不安と国や地方自治体の高齢社会対策との関係>



<全収入別>



Q31SQ では、どのような点に不満を感じられますか。(複数回答)



(対象はQ31で「不満である」・「やや不満である」と回答した人)



69.0%が「老人医療の確保」、64.6%が「公的年金の充実」を望んでいる。

- ・ 重点を置くことを希望する政策としては、「老人医療の確保」が 69.0%と最も高く、続いて「公的年金の充実」が 64.6%、「高齢者が暮らしやすいまちづくり」が 50.9%であった。(Q32)

Q32 あなたは、今後の高齢社会対策において、どのような政策に重点を置くことを希望しますか。(複数回答)

